

新型コロナウイルス感染症の農林水産業への影響について

令和2年4月30日
農林水産総務課

新型コロナウイルス感染症の影響について関係者への聞き取りを行った。(令和2年4月24日現在)

| | | 主な影響 |
|-------------|----|--|
| 農 業 | 米 | <ul style="list-style-type: none"> ・主食用米については、飲食店の休業等により、今後、業務用の販売について減少することが懸念されるが、家庭用の販売は堅調で、現在のところ、影響はほとんど見られない。 ・今年の主食用米の生産については、昨年と同程度の面積の作付に向けた準備が進んでおり、引き続き、進捗状況を確認していく。 ・酒米については、飲食店の利用減少により日本酒の消費量が減少しているため、酒造会社において生産抑制の動きが出ているが、今年産については、昨年と同程度の面積の作付を進めている。 |
| | 野菜 | <ul style="list-style-type: none"> ・外食向けなど業務需要が減少していることや、学校給食が休止されたことから、価格低下が懸念されたが、消費者向けの小売りが堅調で、広島市中央卸売市場には前年並みの入荷量があり、現在、県内産が出荷されているハウレンソウ、こまつな、青ねぎ等多くの品目で高値傾向にある。 |
| | 果樹 | <ul style="list-style-type: none"> ・レモンについては、外食向けの需要が減少傾向にあるが、価格の低下は見られず、今作において、生産者への影響はほとんど見られない。 ・ぶどうについては、現在、高級果実の販売が不振であることから、7月以降のギフト商材であるピオーネ等の販売に影響が懸念される。 |
| | 花き | <ul style="list-style-type: none"> ・3月には、式典等の縮小や中止により需要が減少したため、バラやカーネーションの価格が低下した。 ・さらに4月に入り、7都府県で緊急事態宣言が発表されて以降、花き全体の需要が低迷し、広島市中央卸売市場の花きの平均単価は前年の約7割に低下した。(詳細は別紙参照) |
| 畜 産 業 | 牛乳 | <ul style="list-style-type: none"> ・3月の給食の中止に伴い、学校給食用牛乳からバター、チーズ等加工向けに一部転換され、乳価が前月比で3%低下している。 ・4月も学校給食が再度休止されたため、引き続き乳価の低下が危惧される。 |
| | 食肉 | <ul style="list-style-type: none"> ・外食向けの需要の減少が顕著になり、和牛肉・交雑牛肉の在庫が増加するとともに、広島食肉市場での和牛枝肉価格は前年同月比で22%、交雑牛枝肉価格は18%低下している。 ・豚肉、鶏肉の出荷や販売価格に大きな影響はないものの、品薄傾向にある。 |
| | 鶏卵 | <ul style="list-style-type: none"> ・鶏卵の出荷や販売価格に大きな影響はない。 |

| | | 主 な 影 響 |
|-----|-----|---|
| 林業 | 木材 | ・景気の先行き不安や営業活動の制約などから住宅着工の遅れが出始め、これにより、一部工場が減産していることから、全体的に荷動きが鈍く、木材価格が前年比で2割程度低下している。 |
| 水産業 | かき | ・豊洲市場の単価は前月から2割程度低下している。4月に入り生鮮向けの生産が終了し、単価の安い加工向けの生産が行われていることから、生産額の低下が懸念される。 |
| | 魚 | ・飲食店需要の減少が顕著となり、高級魚であるキジハタ、オコゼや、マダイなどの単価が広島市場において前年比で1～2割低下している。 |
| 共通 | 資金 | ・特に花き・牛肉・かきなどの単価が低迷しており、所得の低下により資金繰り面での不安がある。 |
| | 労働力 | ・現在、パート等雇用労働力の確保に一部で影響はあるが、経営上の大きな問題になっていない。外国人技能実習生については、引き続き出入国が難しい状況が継続した場合は影響が懸念される。 |
| | 販売 | ・食品を中心としたスーパーやインターネット販売、生協の売上が伸びている。 ・ホテルや飲食店の消費は減少し、牛肉などを納入する中間業者は、キャンセルが続き、過剰在庫となっている。 |
| | 観光 | ・観光農園においては、休園や開園延期、6月までの団体客のキャンセルが発生している。 ・直売施設は地元客の消費は堅調だが、外出自粛による観光客減少が懸念される。 |

○今後の対応

県の4月補正予算案においては、生産者の資金繰り面での不安に対応するため、既に貸付済みの融資に対する償還猶予に加え、かき養殖業者に対する資金繰り融資の融資枠を拡大するために必要な予算を計上したところである。

今後は、新型コロナウイルス感染症の当県への影響をさらに分析した上で、この度の国補正予算において措置された様々な事業について、当県での活用を検討するとともに、国事業において十分に対策が講じられていない、県独自の課題に対応するための施策についても検討を行う。

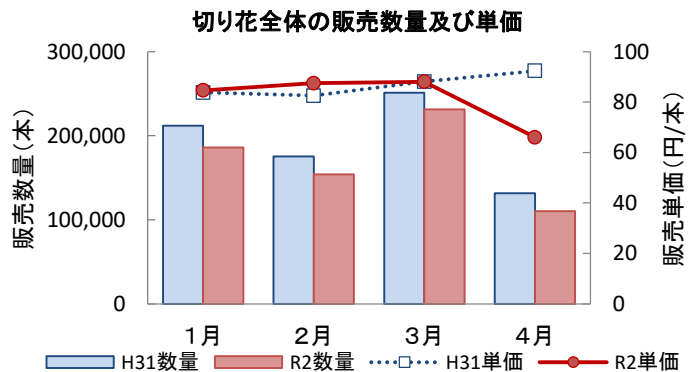
県内産花きの広島市中央卸売市場の販売状況について

1 切り花全体（販売額上位20品目）

3月までは、販売数量、単価とも、前年並みであった。

4月に入り、7都府県で緊急事態宣言が発表されて以降、需要は低迷し、販売数量は前年並みであるが、販売単価は前年比72%に低下した。

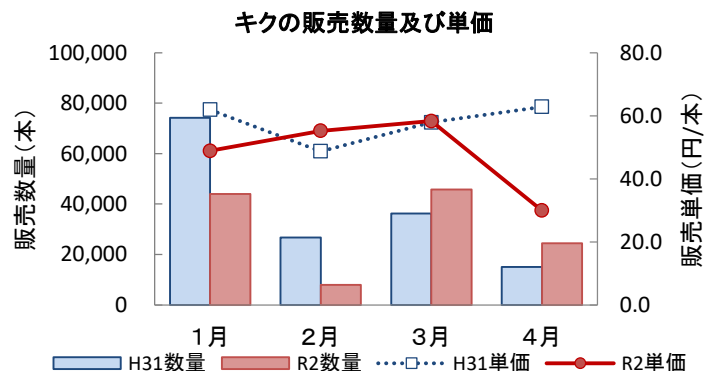
（4月のデータは4月19日までの集計）



2 キク

3月は、彼岸の需要により、前年並みの単価であった。

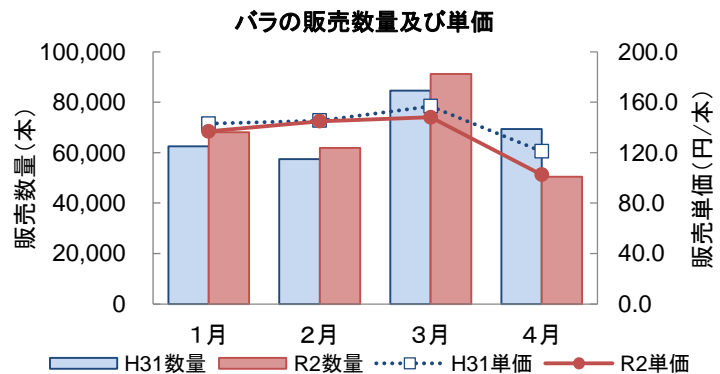
4月になり、冠婚葬祭の縮小等により、需要が減少したことに加え、関西方面に出荷していたキクが、運賃の削減を目的に広島へ出荷されたため、販売数量が増加し、販売単価は前年比48%と急激に低下した。



3 バラ

3月は、販売数量は維持されたものの、式典等の中止、縮小により、需要が減少し、販売単価は前年比94%と下落の傾向が見られた。

4月に入り、需要は低迷し、販売単価は前年比85%と低下している。



4 カーネーション

バラ等と同様、需要が減少し、3月の販売単価は前年比91%、4月は前年比70%と低下している。

